



若者  
女性 子供  
お年寄り



小其塚地区の市川さん(左)と山口さん(右)

平成28年度の農業農村整備優良地区コンクールにおいて、小其塚地区は優秀と認められた。

「コウホネ」を地区のシンボルに！



希少植物「コウホネ」、日当たりが良く、水が綺麗で肥沃な土地に自生する。(花期は6～9月)



環境保全活動の一環として、地区のみなでコウホネの移植活動を行った

**ファームおそのづか**

設立

**農業の低コスト化**

- ・大型機械の導入
- ・労働時間の削減

**作物のブランド化**

- ・特別栽培米の販売
- ・ネット販売の開始

**雇用の創出**

- ・冬期間の作物の導入
- ・後継者の育成

地区の法人「ファームおそのづか」

ほ場整備を契機に、小其塚地区は集落営農に取り組んだ。平成19年度に集落営農組合を設立し、その後特定農業団体の設立を経て、平成21年度に株式会社ファームおそのづかの設立に至った。ほ場整備により、農地の大区画化等がされたことに加え、法人化により、低コストな農業が可能になった。具体的には、大区画ほ場を活かした大型機械や水稻直播栽培の導入により、労働時間が短縮され、人件費の削減に繋がった。また、法人格を持ったことにより、信用取引やブランド化に繋り、特別栽培米の栽培や地元を中心にスーパード等との契約栽培の拡大、全国に向けたインターネット販売等の取組みを開始した。他にも、啓翁桜の栽培により周年農業を開始し、冬期間の所得の安定化を図るとともに、後継者の育成にも取り組んでいる。

顧客のリピーターを確保するだけでなく、地元と信頼関係を築き、農業から離れる方々の受け皿にもなっている。今後、施設建設等の事業拡大により地元雇用を増やしていく計画である。



コウホネの里「おそのづか米」

# 特集 あの地区は今

## 高畠町 小其塚地区

おそのづか

事業後

事業前

農地の分散

農道がない(せまい)

担い手不足

国土地理院撮影の空中写真  
(1976年撮影)

小区画ほ場



航空写真：水土里GIS（水土里ネットやまがた）

### 地域一丸となった「ほ場整備」

高畠町小其塚地区は、置賜盆地の中部、高畠町の南西部に位置し、水田に囲まれたのどかな風景が広がる地域である。

基幹産業は農業で、集落内の共同作業やお祭りなどが伝統的に行われてきた地域であるが、平成の初め頃から昔ながらの地域コミュニティが薄らいでいく傾向があったという。そのような中、地区内の若者が中心となり、地域の祭事を復活させたことにより、お年寄りから子供、女性までもが一体となるような機会が生まれた。これがきっかけとなり、小其塚地区の将来について話し合いが重ねられた。

地区内では当時、農業者の高齢化、担い手の不足が大きな課題として挙げられ、小区画のほ場や軽トラックも入れないような農道では今後農業が続けられないとして、ほ場整備事業への取組みが決定された。

平成9年には準備委員会を設立し、事業への準備と地区内での認識の共有を図った。

事業取組みの条件とされていた環境との調和への配慮の取組みとして、希少植物の「コウホネ」の保全が決定され、広く住民の参画を得て活動を行っている。

平成14年度からほ場整備事業がスタートし、低コスト化や維持管理の省力化などを目的に整備が進められ、平成19年度に事業が完了した。コウホネの管理や農地周りの共同活動は現在でも集落一丸となった取り組みが展開されている。